


府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
香川県	肥土山農村歌舞伎保存会 中山農村歌舞伎保存会 	る。 ・肥土山農村歌舞伎 開催日時：5月3日 開催場所：香川県小豆郡土庄町肥土山 ・中山農村歌舞伎 開催日時：体育の日の前日 開催場所：香川県小豆郡小豆島町中山 江戸末期の上方役者が小豆島に移住し、振付師として指導している。


紀伊水道

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
兵庫県	阿万の風流大踊小踊（南あわじ市） ※国指定重要無形民俗文化財 亀岡八幡宮 TEL：0799-55-0888 兵庫県南あわじ市阿万上町 385 URL： https://www.city.minamiawaji.hyogo.jp/soshiki/shakai/huryuodori.html （兵庫県南あわじ市 HP） 	風流踊（ふりゅうおどり）または風流（ふりゅう）とは、中世芸能のひとつで、鉦・太鼓・笛など囃しものの器楽演奏や小歌に合わせて様々な衣装を着た人びとが群舞する踊りである。南あわじ市阿万（あま）の亀岡八幡神社では、9月15日迄に近い日曜日に風流（ふりゅう）大踊小踊が行われる。風流踊の起源などはっきりとしていないが、「大踊」は室町から桃山時代、「小踊」は三味線音楽の影響を受けており江戸時代中頃から踊られていたと考えられている。風流踊りは、多額の経費を要するために「百石踊」ともいわれた。昭和42年（1967年）に兵庫県指定重要無形民俗文化財に、同47年（1972年）には国選択無形民俗文化財に指定され、平成23年（2011年）には国指定重要無形民俗文化財に指定された。
和歌山県	クエ祭（日高町） ※和歌山県無形文化財 日高町産業建設課 TEL：0738-63-3005  URL： http://www.pref.wakayama.lg.jp/preview/071000/osakana/matsuri/matsuri	白鬚神社で江戸時代から続くクエを祭った豊漁を祈る伝統行事である。 クエ祭は日高町阿尾の白鬚神社で行われる江戸時代から続く豊漁祈願の祭事で、毎年10月に開催される。体長1メートルもある大きなクエの干し物を丸太に吊し、神殿へ奉納しようとする当屋衆（とうやしゅう）と、それを阻止しようとする若衆（わかしゅう）が、クエの御輿をめぐるもみ合う勇ましいケンカ祭り。当日はクエ祭りに併せてクエフェアも行われ、各種PRイベントや高級魚 クエ鍋が賞味できる。

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
和歌山県	.html http://www.town.hidaka.wakayama.jp/p_guide/p_06_sangyo/p_kue.html	
	<p>御坊祭（御坊市）</p> <p>※戯瓢（けほん）踊 （国記録選択無形民俗文化財）</p> <p>※御坊下組の雀踊 （和歌山県指定無形民俗文化財）</p> <p>小竹八幡神社祭礼行司会</p>  <p>URL： http://www.city.gobo.wakayama.jp/kanko/kankou/maturi/1395035915456.html</p>	<p>御坊市の中心地である、御坊・園の氏神である小竹八幡神社の祭礼として、同神社、本願寺日高別院（御坊市御坊）および御坊市街地において毎年10月4日・5日に開催される。</p> <p>江戸時代、日高廻船の基地であった園浦と、寺内町として発展した御坊町の人々が独特の奴衣裳を身につけ、9地区の氏子組がそれぞれ、幟上げ・奴踊・獅子舞・四つ太鼓など、数々の奉納芸能を演じる。</p> <p>奉納芸能である戯瓢踊・雀踊・四つ太鼓等は、廻船により京都・大阪の祭礼文化が瀬戸内海を経て御坊にもたらされたものである。</p> <p>獅子舞の頭は、瀬戸内に共通する張り子の獅子頭である。</p> <p>祭りの食に欠かせない「なれずし」は、近海で捕れたサバを用いる。</p>
	<p>塩津のいな踊（海南市）</p> <p>※和歌山県指定無形民俗文化財</p> <p>塩津いな踊保存会</p>  <p>URL:http://www.city.kainan.lg.jp/kanko/matsuri/shiozu_inaodori.html</p>	<p>海南市塩津浦を回遊したボラの若魚「イナ」の豊漁を祈り、イナを捕る様子を踊りに振り付け、日の丸扇子や櫂をもって豪快に踊る。音頭取りが歌う踊り唄も男らしく、いかにも漁師町らしい威勢のよさが印象的な盆踊りで、蛭子神社前広場において毎年8月15日に開催される。</p> <p>いな踊のイナは、瀬戸内を回遊するボラの若魚のことである。いな踊も若魚のイナのように躍動的であり、塩津浦の生活を支えたイナ網漁の様子を踊りの振りに仕組んでいる。かつて塩津の漁師は、日ごろ瀬戸内や五島列島各地へ漁に出かけ、数ヶ月も家に帰らないこともあったが、盆踊りには帰ってきたという。</p>
	<p>千田祭（有田市）</p> <p>※有田市指定無形民俗文化財</p> <p>須佐神社</p> <p>URL： http://eonet.jp/danjiri/kansai/005/ http://www.city.arida.lg.jp/kanko/susa.html</p>	<p>有田市千田に鎮座する須佐神社の秋祭りで、江戸時代以前から始められていたが、詳細は不明である。須佐神社は、古くから漁業の神や船材としての樹木を供給する樹木神として、漁業や航海に携わる紀伊の海人から崇敬を受けた古社である。</p> <p>千田祭は、有田地域の豊漁・豊作をはじめ、瀬戸内の航海の無事を祈った祭りであり、毎年10月14日に開催される。神饌の大鯛は、瀬戸内海の魚の代表格</p>

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
和歌山県	 <p>淡嶋神社の雛流し（和歌山市）</p> <p>淡嶋神社</p>  <p>URL: http://www.kada.jp/awashima/</p>	<p>であるタイを捧げたものである。</p> <p>祭りでは、須佐神社から千田港へ神輿渡御を行う。御旅所での神事後、浜辺で行われる「鯛投げ神事」は、櫓の上から投げられた神饌の鯛2尾を、氏子の男たちが激しくもみあい奪い合う。この鯛を手にした者は、一年の豊漁、家内安全が約束されるとされ、競う様子から別名「けんか祭り」とも呼ばれる。</p> <p>3月3日の桃の節句に合わせ、全国の崇敬者から淡嶋神社に奉納された雛人形を舟に乗せ、祈りとともに早春の紀淡海峡へ流す神事である。</p> <p>昭和37年（1962年）から始められた比較的新しい祭りだが、安産を祈り江戸時代から紀州徳川家が淡嶋神社に雛人形を奉納する習慣があり、その風習をもとに現在の神事のかたちとなった。淡嶋神社に納められた多数の雛人形を数隻の雛船に積み、女性たちが加太の浜辺まで担いで行き、海辺で神事を行った後、紀淡海峡へ雛船を流す様子は、早春の風物詩となっている。</p>
徳島県	<p>「恵比寿舞」（人形浄瑠璃の演目）</p> <p>徳島県県民環境部とくしま文化振興課 TEL：088-621-2249 E-mail： tokushimabunkashinkouka@pref.tokushima.lg.jp URL：http://jorurikaido.com/ （人形浄瑠璃街道HP）</p> <p>阿波井神社の秋祭り（例祭）（鳴門市）</p> <p>所在地：鳴門市瀬戸町堂浦字阿波井56 鳴門市観光振興課 TEL：088 - 684 - 1157</p> <p>E-mail： kankoshinko@city.naruto.lg.jp</p>	<p>徳島では古くから人形浄瑠璃が盛んに演じられており、阿波人形浄瑠璃として今日に受け継がれている。</p> <p>人形浄瑠璃は西宮の人形操りから発展したもので、淡路から徳島へ、また関西各地への伝播・発展して、人形浄瑠璃として全国に広がったと言われており、海の神様であるえびす信仰を広めた西宮の人形芝居「えびすかき」を起源とする「恵比寿舞」は、お目出度い演目として今も県内各地の農村舞台などで演じられている。</p> <p>【10月9日】神社のある島田島から対岸の吉祥寺（江戸時代は阿波井神社の別当）の御旅所まで、御神輿の「水中渡御」がある。</p> <p>小鳴門海峡の急流を渡るとき、地元漁師の「千才楽、万才楽」のかけ声も勇ましく、昔は海峡の急流をお神輿とともに泳ぎ渡ったが、今は2隻の渡御船にお神輿をのせて太鼓をたたきながら対岸に来る。</p> <p>吉祥寺の境内で当家による餅投げが行われた後、お神輿の宮出しがあり、お神輿をかついで海に入り、お神輿と一緒に泳ぐ。その後、御旅所の吉祥寺を拠点としてお神輿をかついで、氏子が住む町中を練り歩く。</p> <p>【10月16日 秋の大祭】平成9年の調査時では、</p>

府県名	海文化（伝統行事名）	伝統行事の内容
徳島県		<p>前日の10月15日の午後7時ごろから、鳴門市里浦町里浦から来た里東繁雄氏（大正3年生まれ）が音頭出しに紺屋高尾や松茸狩りをはじめとするさまざまな伊勢節が2時間余りにわたって歌われた。</p> <p>なお、里東氏は60年ほどずっと堂浦に来ているという。16日の大祭当日、お神輿をかつぎ、舟だんじりを押して町中を練り歩く。舟だんじりに子どもが乗って鉦・小太鼓・大太鼓をたたく。その後1週間ほど、町中を練り歩く。</p> <p>【10月21日】御旅所の吉祥寺から対岸まで2隻の渡御船にお神輿をのせて渡り、お神輿をかついで神社に帰り、祭りが終了する。</p>
	<p>渦開き（鳴門市）</p>  <p>鳴門市うずしお観光協会 TEL：088-684-1731 URLhttp://www.naruto-kankou.jp/frame.htm</p>	<p>毎年、2月下旬～3月上旬頃に、春の鳴門海峡の観潮シーズン幕開けのイベントである『渦開き』を開催している。渦開きでは、観潮船から黄金の鍵を海峡に投げ入れたり、船上にて安全祈願の神事を行ったりする。</p>
	<p>阿波おどり（徳島市ほか）</p> <p>（一財）徳島県観光協会 〒770-8055 徳島市山城町東浜傍示 1-1 TEL. 088-652-8777</p> <p>URL: http://www.awanavi.jp/（阿波ナビ） http://www.city.tokushima.tokushima.jp/kankou/awaodori/（徳島市）</p> 	<p>400年の歴史を持ち、世界的にも名が知られる阿波おどりの起源については、色々な説がある。阿波おどりが、盛んに踊られるようになったのは、徳島藩祖・蜂須賀家政が天正14年（1586年）に徳島入りし、藍、塩などで富を蓄えた頃からといわれ、その後、藍商人が活躍し、年を重ねるごとに阿波おどりを豪華にしてきた。そこから阿波おどりは市民社会にも定着し、自由な民衆娯楽として花開き、特に戦後は復興の象徴として目ざましく発展してきた。</p> <p>このような歴史を経て、阿波おどりは今では日本を代表する伝統芸能として世界にも知られるようになってきた。現在の阿波おどりは、毎年8月9日に開催される「鳴門市阿波おどり」を皮切りに徳島県内各地で開催されるが、最も賑わいを見せるのが毎年8月12日から8月15日の4日間開催される徳島市の阿波おどりである。</p> <p>阿波おどりの起源とされる、3つの説を紹介する。</p> <p>1) 築城起源説 天正15年(1587年)に蜂須賀家政によって徳島城が落成した際、その祝賀行事として城下の人々が踊ったのが阿波おどりの始まり、とする説。</p>

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
徳島県		<p>2) 風流おどり起源説 阿波おどりの特色である組おどりが、能楽の源流である「風流」の影響を強く受けているといわれ、寛文3年(1663年)の「三好記」に、天正6年(1578)年に十河存保が勝瑞城で風流おどりを開催したという記述があり、これが阿波おどりの原型、とする説。</p> <p>3) 盆おどり起源説 阿波おどりが旧暦の7月に行われた盆おどりであるというもので、「俄」「組おどり」といった特殊なものが派生してきたとはいえ、その元は盆おどりである、とする説。</p>
	<p>佐田神社秋季例大祭（だらだら祭り） （阿南市）</p> <p>佐田神社（徳島県阿南市椿泊町東 95） 問合せ先：阿南市役所文化振興課 0884-22-1798</p>	<p>紀伊水道に展開していた、阿波水軍の長であった森家の功績を讃えるとともに、豊漁を祈願するお祭りである。男たちが神輿を担いで何度も海の中に入り、大漁を祈る。また、神輿を船に乗せて対岸の神社まで赴き、大漁と海上安全を祈願する。その際には大漁旗を掲げた漁船団が先導し、湾内をパレードのように行進する。</p> <p>現在は祭りの期間が決められている（9月中旬の週末）が、過去には具体的な祭りの期間がなく、1ヶ月近くだらだらと祭りが続いたという逸話があるため、通称「だらだら祭り」と呼ばれている。</p>
		

備 讃 瀬 戸

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
岡山県	<p>西行まつり（玉野市）</p> <p>公益社団法人玉野市観光協会 〒706-0002 岡山県玉野市築港 1-1-3 TEL：0863-21-3486 FAX：0863-32-3331</p>	<p>平安時代から鎌倉時代の僧侶であり歌人である西行法師が、諸国をめぐる旅の中で、白砂青松の美しい渋川海岸に立ち寄ったことを記念して「西行まつり」が開催されている。</p> <p>西行法師についての話や西行うどんがふるまわれる他、西行法師ゆかりの地をめぐるクイズラリーなど西行を偲びながら毎年3月初旬に、玉野市渋川海岸において開催される。</p>
		